

林業試験場中辺路試験地の取り組みについて

林業試験場 経営環境部 松本 康久

【はじめに】

林業試験場中辺路試験地では、県内の植林地に山行き苗木を安定的に供給するため、スギやヒノキの優良な種苗を育成しているほか、松くい虫被害に対する抵抗性マツ苗や里山再生・広葉樹林用の緑化木、花粉症対策に関する品種の育成・研究などに取り組んでおり、その内容について紹介する。

【中辺路試験地の概要】

林業試験場中辺路試験地（以下、「中辺路試験地」という。）は、昭和 37 年、当時の栗栖川村、石船地区等地元の寄付と協力により、本県の林木育種の中核を担うという位置付けで、現在の田辺市中辺路町栗栖川に林木育種場として設置された。その後、林業センター（現林業試験場）に統合され、現在の形となっている。開設当時、和歌山県では人工造林のピークを迎え、約 9,600ha の造林が行われており、これらの造林地への優良な苗木を育成・提供するのが主な仕事であった。時代の変化とともに育種場の役割も変わり、中辺路試験地となった現在、優良種苗の育成のほか、多様で健全な森づくりに資する取り組みを行っており、また、スギ・ヒノキの主な種子生産を担っている。

主な施設としては、中辺路試験地庁舎を中心に、スギ・ヒノキの育苗畑のほかに抵抗性マツ・広葉樹等の苗畑 1.65ha、スギ・ヒノキの採種園 16.46ha、マツの採種園 1.14ha、スギの採種園 0.79ha を整備している。

また、令和 5 年度から 3 ヶ年かけてヒノキの特定母樹園 1.50ha を整備する。

【取り組みの内容】

○優良種苗（スギ・ヒノキ精英樹）の育成・供給

令和 4 年の種子配布量は、スギ：26.5kg、ヒノキ：30.3kg、抵抗性マツ：0.2kg

○抵抗性マツの育成・供給

令和 5 年センチウ接種試験結果は、生存率は 44%で、現在の出荷予定量は、1,034 本

○花粉症対策苗（スギ・ヒノキ）の育成・供給

令和 4 年度に、スギ少花粉ミニチュア採種園 0.23ha とスギ閉鎖型採種園のビニールハウス 2 棟を増設した。令和 5 年度は、ヒノキ特定母樹ミニチュア採種園 0.4ha を施工中。

○広葉樹苗（ウバメガシ・クヌギ・サクラ等）の育成・供給

令和 4 年度の緑化木出荷量は、3,141 本と紀の国森づくり基金活用苗木配布として、9 団体へ合計 674 本の苗木を配布した。また、スクールステイ竹ポット苗木 587 個を受け入れた。

天皇皇后陛下お手播き関係では、オガタマノキ 1 本とコウヤマキ 2 本の苗木を配布した。



ヒノキ袋掛け作業



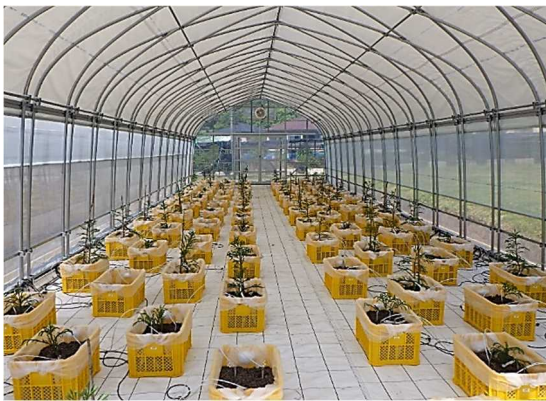
ヒノキのへタ取り用ドリル



スギ球果採種用千歯こき



抵抗性マツ・センチュウ接種作業



R4 新設 スギ閉鎖型採種園



スクールステイ苗木